

(一社)日本建設業連合会 東北支部
会員会社一覧

RN建設(株)	大成ロテック(株)
アイサワ工業(株)	大日本土木(株)
青木あすなろ建設(株)	大豊建設(株)
あおみ建設(株)	(株)竹中工務店
(株)浅沼組	(株)竹中土木
(株)新井組	鉄建建設(株)
(株)安藤・間	東亜建設工業(株)
伊藤組土建(株)	東急建設(株)
岩倉建設(株)	東鉄工業(株)
岩田地崎建設(株)	東洋建設(株)
(株)植木組	戸田建設(株)
大木建設(株)	飛鳥建設(株)
(株)大林組	西松建設(株)
(株)大本組	日特建設(株)
(株)奥村組	(株)NIPPO
オリエンタル白石(株)	日本国土開発(株)
(株)加賀田組	(株)ノバック
鹿島建設(株)	(株)橋本店
株木建設(株)	ピーエス・コンストラクション(株)
川田工業(株)	(株)フジタ
(株)熊谷組	(株)不動テトラ
(株)鴻池組	(株)福田組
五洋建設(株)	(株)本間組
佐藤工業(株)	前田建設工業(株)
清水建設(株)	松井建設(株)
ショーボンド建設(株)	三井住友建設(株)
西武建設(株)	みらい建設工業(株)
(株)銭高組	村本建設(株)
仙建工業(株)	(株)森組
第一建設工業(株)	(株)森本組
大旺新洋(株)	ライト工業(株)
大成建設(株)	若築建設(株)

ご意見ご感想をお寄せください

本誌D'ewsをご覧になっての、ご意見・ご感想および取りあげて欲しい記事などを書いて、下記のD'ewsアンケート係までお送りください。

発行／(一社)日本建設業連合会 東北支部
広報委員会
〒980-0014 仙台市青葉区本町2-2-3(広業ビル)
TEL 022-221-7810
FAX 022-265-9465
E-mail tohoku@nikkenren.or.jp

2026年9月発行
編集／広報委員会
企画・制作／(株)創童舎

ひとつと土木建築の情報誌

「デュース」

D'ews

日建連ニュース
2026
Vol.36

特集

仙台市役所本庁舎整備(第1期)建築工事

百万都市・仙台の
中心となる現場から、
建設業の未来を描く。

土木建築の
今が読める

Sendai City Hall

市街地の制約を乗り越え、 建設を支える施工技術。

杜の都・仙台を象徴するケヤキ並木が美しい禅寺通り。そのすぐそばで仙台市役所本庁舎の建替工事が進められている。新庁舎は地上15階・地下2階、延床面積約6万4,000㎡を誇る大規模施設で、行政機能に加え、市民利用スペースや災害対策機能などを備えた、市の新たな中枢拠点となる。

市街地という厳しい施工条件の中、現場では安全性と周辺環境への配慮を最優先に、多彩な技術と創意工夫を重ねながら工事を進めている。その中でも特徴的な技術の一つが、地下鉄駅と新庁舎を結ぶ地下連絡通路の施工に採用された「ボックス推進工法」だ。現場を率いる星野明弘所長（大林組）は「当初検討されていた開削工法では、地下に張り巡らされた電力や通信ケーブル、上下水道など数多くの埋設物を移設する必要がありました。さらに道路を長期間通行止めにしなければならず、市民生活への影響も避けられません。そこで採用したのが地上を大きく掘り返すことなく、地中で箱形構造物を押し進めるボックス推進工法です」と説明した。

この工法は全国でも事例が限られており、今回で24件目、東北では初めての施工。使用する掘進機も極めて希少で、他現場で使用した機械を一部転用するなど、入念な計画と準備が欠かせなかったという。「限られた施工ヤードや工程の中で、多くの関係者と調整を重ねながら無事に施工が完了しました。この現場を代表する技術的な成果になったと思います」。



ボックス推進工法では、1ピース1m幅のカルバートを1日最大2ピース（約2m）ずつ前進。約2か月をかけて、長さ約57mの地下連絡通路を構築した。

Building



Feature 特集

「極端に言ってしまうと、現場をテーマパークのようにして、完成までの過程も市民の皆さんと一緒に楽しみたい」と星野所長。

建設業の魅力を次代へつなぐ、 先進的な現場づくり。

東北最大の都市・仙台で、約60年ぶりとなる市役所本庁舎の建設が進められている。行政の中枢として、市民の暮らしや地域を支える新庁舎は、大きな注目を集める一大プロジェクトだ。この現場で築かれているのは、建物だけではない。働きやすさを追求した取り組みや市民との交流を通して、建設業の未来を築く、新たな現場づくりに挑戦している。



完成予想パース

- 工事概要
- ・工事名／仙台市役所本庁舎整備（第1期）建築工事
- ・施工場所／宮城県仙台市青葉区国分町三丁目7番1号外
- ・工期／2024年6月26日～2027年11月30日
- ・発注者／仙台市
- ・設計・監理／石本建築事務所・千葉学建築計画事務所設計共同企業体
- ・施工者／大林組・鉄建建設・仙建工業・深松組共同企業体



良いものづくりは、 働きやすい現場から。

「私はものづくりが大好きだから、建設業を斜陽産業にしたいくないですね」。その思いを原動力に、星野所長は数々の現場に携わってきた。本社では約4年間にわたり、全国の建設現場の働き方改革や職場環境の改善を推進する立場として、指導や支援に従事。その経験を通じて、「働く環境を変えることが、建設業の未来につながる」という信念を強くしてきた。

「建設業は、多くの協力会社や作業員さんが力を合わせ、一つのものをつくり上げる仕事です。皆さんが気持ちよく働けてこそ、良いものづくりが実現でき、この業界の魅力も高まると信じています。そのためにも『またこの現場で働きたい』と思える環境をつくるのが、建設業の未来には欠かせないと考えています」と星野所長。それが安全性や品質、生産性の向上、ひいては建設業全体の魅力を高めることにつながるという。

そして、建設業への思いは地域との向き合い方にも表れている。『仙台市民と共に生きるを楽しむ』を現場全体のテーマとして掲げ、工事期間中も市民の暮らしに寄り添い、地域に親しまれる現場づくりを大切にしてきた。「安全への配慮はもちろんですが、大きな注目を集めている現場だからこそ、建設業の魅力を多くの人に伝えるチャンスだと捉え、積極的な情報発信に挑戦しています」。

その思いを形にした取り組みの一つが、「10年先の建設業の在り方」を追求したという現場事務所「FUN BASE STATION」だ。



前例のない取り組みとなった「FUN BASE STATION」。他の建設会社の見学も積極的に受け入れている。



事務所には、新庁舎から望む風景のイメージ写真を掲示。完成後の姿を思い描きながら、日々の業務に取り組んでいる。



女性専用の休憩スペース「なでしこルーム」を整備。また女性スタッフによる、現場の季節の飾り付けや講習なども実施。

働く人の満足度と一体感を高める 「FUN BASE STATION」

従来のイメージにとらわれず、職員や協力会社が集い、建設業の魅力を発信する拠点として整備された「FUN BASE STATION」。現場事務所としては初めて、快適で先進的なオフィスづくりを評価する「日経ニューオフィス賞 東北ニューオフィス奨励賞」も受賞している。「3年半で撤去する事務所」に、そこまで手をかける必要があるのかという声もありました。しかし、その間の働きやすさや現場へ

の愛着を考えれば、十分に意味のある投資だと思っています」。

事務所の扉を開くと、目に飛び込んでくるのが開放感のある吹き抜けのエントランス。そこに飾られているのは、仙台の夏の風物詩「仙台七夕まつり」の七夕飾りだ。さらに3つの会議室には「ベガルタルーム」「イーグルスルーム」「89ERSルーム」と、仙台のプロスポーツチームにちなんだ名称やチームカラーが取り入れられるなど、地域への愛着が自然と湧く工夫が随所に散りばめられている。

また、フリーアドレスの執務スペース、最

大80名収容のメインミーティングルーム、カフェスペースなどを設け、職種や会社を越えてコミュニケーションが生まれる環境に。その上で、女性しか入れない「なでしこルーム」、LGBTに配慮したトイレを備えるなど、多様な人材が働きやすい環境づくりが行われており、こうした一つひとつの取り組みが、働く人の満足度を高めるとともに、現場の一体感を育んでいる。

そして、こうした創意工夫は事務所だけにとどまらない。次ページでは、現場全体で実践されている取り組みの一例を紹介する。



会議室には、仙台を拠点とするプロスポーツチームをモチーフにしたデザインを採用。地域への愛着を自然と感じられる空間となっている。



星野所長の好きな言葉は「知好楽遊」。孔子の「知好楽」に「遊」を加えた言葉で、「知る」「好きになる」「楽しむ」、そして「遊び心」を大切にするという仕事観が表れている。



現場で働く人の目線から考える
作業員休憩所の整備

作業員休憩所には、カフェコーナーや横になって休める「ごろんと休憩所」、食品自動販売機などを設置するなど、働く人が心身ともにリフレッシュできる環境づくりを目指している。

屋外のオープンスペースには、過ごしやすい空間と、手のひらを冷やすAVA冷却装置を導入。



「ごろんと休憩所」はカーペットが敷き詰められており、ごろごろ横になることができるユニークな休憩所だ。



多くのコミュニケーションの架け橋となっている「おごり自販機」。星野所長のスマートフォンには専用のアプリが入っている。



カフェのような休憩スペース。

家族にも現場を身近に
「現場だより」

現場で働く人だけでなく、その家族にも工事への理解を深めてもらう「現場だより」を発行。工事の進捗や現場での出来事、イベントなどを紹介し、家族にも安心と誇りを感じてもらえるよう取り組んでいる。

"残業させない"を仕組みにする
「ウィークリースタンス」

完全週休二日の徹底を基本方針として掲げるとともに、「金曜日の夕方以降に依頼をしない」「月曜日の朝一番を期限にしない」といった相手の働き方に配慮したルール「ウィークリースタンス」を実践。業務の進め方そのものを見直すことで、長時間労働を抑制し、誰もが計画的に休暇を取得しやすい現場づくりを進めている。

暑さに負けない現場をつくる
熱中症対策

近年、夏場の猛暑は建設現場にとって大きな課題となっている。本現場では、屋外休憩所やクーラーハウスを設置するほか、10～15℃の水温に保たれた「AVA冷却装置」を導入。さらに、アイスクリームを自由に食べられる環境も整えられている。

"良い行動"を称え合う
「GOODポイント」

ミスやマイナス面ばかりに目を向けるのではなく、仲間の良い行動を積極的に称え合う「GOODポイント」制度を実施。安全への配慮や気配り、率先した行動などを評価し、景品を贈呈することで、現場全体に前向きな雰囲気を生み出し、働きがいの向上にもつなげている。

休みやすい職場づくりを後押し
「アニバーサリーカレンダー」

誕生日や結婚記念日、子どもの行事などを共有する「アニバーサリーカレンダー」を共有。一人ひとりの大切な日を現場全体で把握することで、休暇を取得しやすい雰囲気づくりにつなげている。

気軽に声をかけられる関係づくり
「おごり自販機」

星野所長の専用のQRコードをかざすことで飲み物を無料で購入できる「おごり自販機」を設置。飲み物をきっかけに気軽にコミュニケーションを取ったり、相談できる環境を生み出している。



現場を学びの場として活用する「こども現場プロジェクト」。工事の過程を間近に見て、建設業やものづくりの魅力に触れる機会を創出している。



未来の建設業を担う、
人を育てる現場へ

この現場では、建設業の魅力を次の世代へつなぐ取り組みも積極的に行われている。その一つが、東北大学と連携して実施している「こども現場プロジェクト」だ。仮囲いの一部に見学スペースを設け、週末に一般開放(夏休みは平日も開放)。実際に現場で使用している工具や機器などに触れながら、建設の仕事を身近に体感できる場に。現場を地域に開

くことで、子どもたちがものづくりや建設業に興味を持つきっかけづくりを目指している。さまざまな取り組みを通して、建設業の未来を見据える星野所長。しかし現在は、「もっと経験を積みたい」「もっと仕事をしたい」という意欲ある人材に、限られた勤務時間の中で、いかに多くの成長機会を提供できるかが課題だという。「建設業は、現場で経験を積み重ねていくことが重要な仕事です。時間をかけたOJTは、これからも欠かせません。一方で、AIなどのデジタル技術を活用するこ

とで、より多くの時間を有効に使える環境をつくり出せると考えています」。実際に現場でも、デジタル技術を活用した進捗管理システムを導入し、施工状況を効率的に把握。現場管理の負担を軽減しながら、より付加価値の高い業務に集中できるようになっている。市民の大きな期待を集める市役所本庁舎の建替工事。ここで積み重ねられている技術や働きやすい環境づくり、人への向き合い方は、これからの建設業の新たな可能性を切り拓いていくはずだ。

2025年度 各県意見交換会



2025年度 意見交換 テーマ

1. 安定的かつ継続的な公共事業予算の確保と発注の平準化について
2. 生産性の向上について
3. 完全週休2日実現と時間外労働削減について
4. 新規就労者確保と現労働者の処遇改善について

青森県

期日
2025年10月24日（金）
場所
ホテル青森



県土整備部長
新屋 孝文

岩手県

期日
2025年11月21日（金）
場所
ホテルメトロポリタン盛岡



技監兼河川港湾担当技監
岩崎 等

秋田県

期日
2025年12月23日（火）
場所
秋田県JAビル



建設部長
小野 潔

宮城県

期日
2025年10月20日（月）
場所
江陽グランドホテル



土木部長
齋藤 和城

山形県

期日
2025年11月7日（金）
場所
ホテルメトロポリタン山形



技術統括監（兼）次長
佐藤 亨

福島県

期日
2025年10月30日（木）
場所
杉妻会館



土木部長
矢澤 敏幸

長年にわたりICT施工や生産性向上のアウトプットに取り組んできたが、そろそろアウトカム（効果）が見える化し、数値などでメリットを説明できるようにする必要がある。

求職者から選ばれる業界にならないと担い手確保の課題解決にはつながらない。そのため週休2日制度を推進し、ICT施工の普及によって生産性を高めていかなければならない。

建設業界の担い手不足を深刻に受け止めており、業界団体の皆さんと連携を図り、技能者が安心して働ける環境を整えていく。

ご提案いただいた意見交換の議題はどれも大変重要な課題だと認識している。皆さまのご意見を施策展開に活かしたい。

今回示されたいずれのテーマも建設業を持続可能な産業にするために大変重要な課題と認識している。建設業の最先端で活躍されている皆さんと意見を交換し、本県の今後の施策の参考にしていく。

特に若い世代の担い手確保には、事業費の確保と発注の平準化、働き方改革のかけ算が欠かせない。引き続き課題解決に努めたい。

願いたい。

生産性向上については建設DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進が必須であることは十分に理解いただいている。BIM／CIM活用をはじめ、全体として着実に進展している。導入が進むASP（情報共有システム）については、紙ベースのやり取りが併用されているケースもあるようだ。各県の職員への啓発に引き続き尽力いただきたい。

完全週休2日実現と時間外労働削減については、発注者指定型による取り組みが確実に広がり、市町村への啓発活動は地域全体での意識向上につながると期待している。地元で進まない要因には、工程確保への不安や稼働日減による技能労働者の収入減があるようだ。当初契約時はもちろん、個々の事情に応じた柔軟な工期の見直し、変更契約による追加費用の負担、そして適切な労務費の採用など、現場に寄り添った施策の強化をお願いしたい。

就労者確保については他産業を上回る処遇改善が必要だ。建設業法改正による処遇改善意識の向上機運に乗じて、物価高を踏まえた適正な賃金水準の確保と契約中の工事についてもスライド条項の適用をさらに強化し、労働者の隅々まで十分な賃金を行き渡らせるよう官民協同で推進する必要がある。

広報活動については各県とも学校との連携強化やSNS（交流サイト）などを活用した情報発信に広く取り組んでいただいている。今後は、インターンシップなど体験型メニューの用意や、女性・外国人の活躍を支援する環境整備などを強化すべきだと考えている。東日本大震災直後、いち早く道路啓開に駆け付けた行動は、4Kのうちのまさに“カッコいい”に値する。社会におけるエッセンシャルワーカーたる建設産業のカッコよさを将来の担い手にうまく伝えられる戦略的な広報活動を、各県と連携しながら展開していきたい。

2025年度 第2回東北地方整備局との意見交換会

期日／2025年10月10日（金） 場所／江陽グランドホテル

東北地方整備局との2025年度第2回意見交換会が10月10日に開かれた。この中で日建連は第1次国土強靱化実施中期計画に即した事業量の確保を要望するとともに、広域的な災害対応について整備局側の方針を確認した。

意見交換には、東北地方整備局から西村拓局長をはじめとした幹部が出席、日建連からは大橋成基支部長

ら正副支部長・委員長が出席した。開会に当たり、西村局長は「東北地方はまだ多くの事業が必要で、予算の確保が大事だ。直轄事業の発注制度でも改善すべき点がある。それに加え、自治体や民間とも連携して全体で取り組みを進めたい」と語った。大橋支部長は「働き方改革と生産性の向上、安全の全てが最重要課題である担い手の確保につながる」と強調した。



東北地方整備局
西村 局長



2025年度 東北支部活動報告会

期日／2025年12月8日（月） 場所／江陽グランドホテル

2025年度東北支部活動報告会では、支部が最優先課題に挙げる「働き方改革」と「生産性向上」などについて各委員会が活動状況を報告した。

冒頭、大橋成基支部長は活動報告会で発表する各委員会の実態調査結果について「委員が会員各社や

現場の意思を吸い上げて作成しており、支部の総意となる。各発注機関の意見交換に活用しており、発注者からは建設業の課題を知るための重要な資料として評価されている」として、各委員の日ごろの活動に謝意を示した。



日本建設業連合会 東北支部
大橋 支部長



2025年度 NEXCO東日本東北支社との意見交換会

期日／2026年1月26日（月） 場所／江陽グランドホテル

東日本高速道路（NEXCO東日本）東北支社との意見交換会が1月26日に開かれた。

意見交換会にはNEXCO東日本東北支社から梅木秀郎支社長をはじめとする幹部、日建連からは大橋成基支部長をはじめ副支部長・各委員長らが出席した。

大橋支部長は「技能労働者の賃金

水準を全産業労働者の平均レベルまで引き上げる取り組みや生産性を高める業務の効率化などを進めており、今後はさらに加速させる必要がある」と強調。梅木支社長は「受発注者で密接なコミュニケーションを図り、PDCA（企画立案、実施、評価、改善）を回しながら取り組みを最適化していきたい」と応じた。



NEXCO東日本東北支社
梅木 支社長



2025年度 電力工事委員会電力講演会

期日／2026年2月27日（金） 場所／ホテルメトロポリタン仙台



電力工事委員会は2月27日、ホテルメトロポリタン仙台で2025年度電力講演会を開いた。東北電力が運営している水力発電事業を通し、水力発電の歴史や特徴、地域への役割について会員らが理解を深めた。

開催あいさつで同委員会の坂西将徳委員長は「東北地方が他地域以上

に高齢化、人口減少、首都圏への人口流出が進んでいる」ことに言及。講演では東北電力の村里浩司再生可能エネルギーカンパニー水力部副部長が「水力発電の歴史を振り返る」をテーマに講演した。



球体ドローンの実演

2026年度 第1回東北地方整備局との意見交換会

期日／2026年5月19日（火） 場所／ハーネル仙台

東北地方整備局との2026年度第1回意見交換会が5月19日、ハーネル仙台で開かれた。

意見交換会には東北地方整備局から西村拓局長をはじめとした幹部が出席。日建連からは竹中康博支部長をはじめ副支部長、各委員長らが出席した。

開催に当たり西村局長は「物価高や資機材の調達は厳しい状況が続い

ており現場にも影響している。官民がしっかり情報共有し、現場の実情を踏まえて対応していくことが大事になる」と語った。

竹中支部長は「激甚化・頻発化する自然災害への対応、老朽化するインフラの維持と再生、担い手確保、生産性向上など、建設産業を取り巻く課題は一層複雑になっている」と述べた。



2026年度 公共工事の諸課題に関する意見交換会

期日／2026年5月25日（月） 場所／ホテルメトロポリタン仙台

日本建設業連合会と東北地方整備局をはじめとした東北地区主要発注機関との「公共工事の諸課題に関する意見交換会」が5月25日、ホテルメトロポリタン仙台で開かれた。

意見交換会には東北地方整備局の西村拓局長をはじめとする発注機関の幹部らが出席。日建連側は本部から運輸賢治土木本部部長や各委員長、東北支部からは竹中康博支部長、

副支部長ら幹部が顔をそろえた。

この中で東北地方整備局は、適正な工期の設定・延長、検査書類の限定、ウイークリースタンスの徹底など、発注者として対応すべき事項の実施を事務所に周知徹底していると説明。工事書類作成の負担軽減を目的に、「効率的作業事例集」を作成し、関係者で共有する予定も明かした。



2026年度 東北支部定時総会

期日／2026年5月25日（月） 場所／ホテルメトロポリタン仙台

5月25日に仙台市のホテルメトロポリタン仙台で開いた2026年度定時総会では、災害協定に関する対応と訓練や担い手確保に向けた条件整備、発注機関との多様な入札制度の推進に向けた調査研究などを柱とする26年度事業計画を決めた。

竹中康博支部長は「資材・エネルギー価格の高止まりや国際情勢の不確実性、自然災害の頻発化などの課題は待ったなしの状況だ。公共・民間工事の着実な推進や安全の順守、技術開発など多方面にわたり地域に貢献していけるよう、本部との連携のも

と、会員企業一丸となり取り組みたい」と話した。



日本建設業連合会 東北支部
竹中 支部長



2025年度 市民現場見学会

期 日／2025年6月20日(金)
 工事名／仙台城跡本丸北西及び西門石垣復旧工事
 施工者／清水建設
 見学者／東北工業大学、広報委員会 他



2025年度 安全環境対策委員会 委員長パトロール

期 日／2025年7月18日(金)
 工事名／仙台市役所本庁舎整備第1期建築工事
 施工者／大林組・鉄建建設・仙建工業・深松組JV
 参加者／安全環境対策委員会 他



2025年度 鉄道事業委員会安全パトロール

期 日／2025年10月6日(月)
 工事名／東北本線東仙台・岩切間中江南こ道橋新設工事
 施工者／鉄建・フジタJV
 参加者／JR東日本、鉄道事業委員会 他



2025年度 電力工事委員会現場見学会

期 日／2025年10月15日(水)
 工事名／川内沢ダム本体工事
 施工者／西松・奥田・グリーン企画JV
 見学者／東北電力、東北電力ネットワーク、電力工事委員会 他



2025年度 建築技術委員会現場見学会

期 日／2025年10月27日(月)
 工事名／大崎地区(東ブロック)職業教育拠点校新築工事
 施工者／三井住友・仙建工業・日本製紙石巻テクノJV
 見学者／東北大学、建築技術委員会 他



ENGINEERING EXHIBITION 東北'26

— 建設技術公開 —

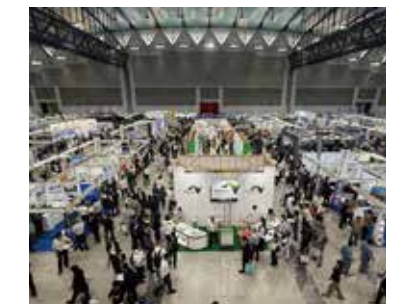
期日／2026年6月3日(水)～4日(木)
 場所／夢メッセみやぎ

広げよう新技術 つなげよう未来へ

35回を迎えた今回は、386の企業や団体が計966技術を展示した。日建連会員会社からも多くの技術が披露された。

会場では設計・施工、維持管理・予防保全、防災・安全、建設リサイクルその他の4分野に分けて最新の技術を紹介。新技術のプレゼンテーションのほか、教育アニメ映画「未来補完計画」のプレゼンテーションなども行われ多くの来場者でにぎわった。

「EE東北」は、時代のニーズに対応して開発された建設分野・建設関連分野に関係する新材料・新工法などを公開し、その普及を図ることにより、良質な社会資本の整備を通じて地域の発展に寄与することを目的として、1990年度から開催されている。





もっと女性が活躍できる建設業を目指して

「けんせつ小町」は建設業で働くすべての女性の愛称です。
建設現場で働く技術者・技能者、土木構造物や建物の設計者、研究所で新技術を開発する研究者、
お客様とプロジェクトを進める営業担当者、会社の運営を支える事務職など、
活躍の舞台は多岐にわたります。

日建連はけんせつ小町を応援しています！

日建連では、これまで男性中心だった建設生産方式を女性が持てる力を発揮できる産業にしていくため、
女性にとっても働きやすく、働き続けられる労働環境の整備を進めています。
基本方針やアクションプランを定め、会員各社、専門工事業者、協力会社などと連携しながら、
積極的に取り組んでいます。

けんせつ小町Instagram公開中！

けんせつ小町の日々の活動や活躍を発信しています。
ぜひフォローしてください！



follow us!

Komachi event information

けんせつ小町 現場見学会

期 日／2025年9月30日(火)
場 所／「仁井田浄水場等整備事業(土木)」
「古川雨水排水ポンプ場建設工事」
参加者／けんせつ小町(小)委員会委員長・WG委員 他



けんせつ小町 合同パトロール

日 時／2025年11月5日(水)
場 所／「国道47号中山平山大橋上部工工事」
参加者／けんせつ小町(小)委員会委員・WG委員 他



第10回 けんせつ小町フォーラム

期 日／2026年3月4日(水)
場 所／WEB開催
講 師／市倉 加奈子 氏(臨床心理士)



Stories Vol.9

現場で 積み重ねる経験を、 成長の糧に。

木村 杏菜さん

三井住友建設株式会社 東北支店
八戸工業高等専門学校産業システム工学科卒業。
2021年、三井住友建設入社。青森県八戸市出身。

高専時代に構造力学や測量などの土木工学を学び、知識を直接仕事に活かせる建設業界へ進むことを決意しました。2021年に入社し、これまで経験した現場の中で特に印象に残っているのが橋梁工事です。橋が少しずつ形になり、最後につながった瞬間は大きな達成感がありました。完成まで一貫して携わることではできませんでしたが、「次は着工から完成まで関わってみたい」という新たな目標もできました。

現在は、山形県にある最終処理場の造成工事で施工管理を担当しています。日中は現場で測量や丁張り設置、出来形管理などを行い、夕方以降は作業計画書の書類作成といったデ

スクワークに当たっています。忙しくて大変な時もありますが、多くの経験を積めることにやりがいを感じています。

そんな日々の業務で大切にしているのが、現場の作業員の皆さんとのコミュニケーションです。以前は注意しないといけない場面でも、声をかけるのに躊躇していました。しかし、経験を重ねるうちに信頼を築くための距離感を身に付けることができ、率直に意見が言えるようになりました。また、経験豊富な方々からは教わることも多く、学びながら成長できているを実感しています。

建設業界はまだ女性が少ない職場もありま

すが、自分の考えをしっかり伝え、積極的にコミュニケーションを取ることで活躍できる環境だと思います。将来はこの現場経験を糧に、設計や技術部門など、ものづくりをさまざまな角度から支えられる技術者を目指していきたいです。



趣味は旅行とライブ鑑賞。「休日は行ったことのない土地を訪れ、ご当地グルメを味わったり、好きなアーティストのライブを楽しんだりしています」。仕事で忙しい日々だからこそ、オンとオフの切り替えを大切に、リフレッシュする時間を満喫しているそうです。

わたしの 現場探検記!!

Vol.34

復興の想いを、未来へつなぐ 岩手県釜石市の 市庁舎新築工事の現場へ。

東日本大震災からの復興の道を歩んできた釜石市で、
市政の新たな拠点となる新庁舎の建設が進んでいます。
市民に親しまれる交流の場として、
そして災害時には地域を支える防災拠点として、
多くの期待を集める現場を訪ねました。

工事名／釜石市新市庁舎建設（建築主体）工事
施工場所／岩手県釜石市天神町5番20号
工期／2023年12月22日～2026年6月30日
発注者／釜石市
設計監理者／株式会社佐藤総合計画
施工者／戸田・山崎特定建設工事共同企業体
工事内容／構造種別
庁舎棟：地上5階建、RC・SRC・S・PCa造（基礎：RC造）
建築面積：2,585.42㎡／延床面積：8,007.59㎡
車庫棟：地上2階建、RC造（基礎：RC造）
建築面積：432.53㎡／延床面積：748.60㎡

今回の
現場

釜石市新市庁舎建設（建築主体）工事

今回の
訪問者

戸田建設株式会社 東北支店 管理部建築管理グループ
小野寺 莉乃さん

今回案内
してくれた人

戸田・山崎 特定建設工事共同企業体
釜石市新市庁舎建設（建築主体）工事
作業所長 堀川 俊永さん（右） 副所長 安藤 和也さん

1

現場概要の説明



現場見学の前に事務所でパネルやスライド資料を見ながら、新庁舎建設工事の概要について説明を受けました。建物は庁舎棟と車庫棟の2棟で構成され、市民の暮らしを支える新たな拠点となります。また、梁の鉄筋は地上であらかじめ組み立ててから設置することで、安全性だけでなく施工効率も向上し、工期短縮にもつながるとのこと。工事を進める上で、さまざまな工夫が取り入れられていることを学びました。

2

新庁舎の完成予想図



完成予想図を見ると、庁舎棟と車庫棟が一体となった、開放感のある建物になることがよく分かりました。1階には市民が利用しやすい窓口やホールが設けられ、災害時の拠点としての機能も備えています。完成後、多くの市民が集う新たなシンボルになるのだと思うと、とても楽しみにしていました。

3

エッジサイレンサーで防音に配慮



現場の周囲には高さ3mの仮囲いに加え、その上部に「エッジサイレンサー」と呼ばれる高さ約60cmの防音パネルが設置されていました。音は上方向にも広がやすいため、この設備を追加することで、通常の仮囲いだけの場合と比べて約2倍の防音効果が期待できるそうです。工事を進めるだけでなく、近隣で暮らす方々への配慮も徹底されていることを知りました。

5

万一の事態にも備える市長室



市長室にも、県産・市産のアカマツがふんだんに使用される予定です。また、市長室の裏側には専用の廊下が設けられており、隣室に災害対策本部が設置された際にも迅速に行き来できるようになっています。普段の使いやすさだけでなく、災害時まで見据えた設計になっていることに驚きました。

4

地域の特色を取り入れた議場



議場は全体的に木の温もりが感じられる空間となっており、机や椅子には釜石市産のアカマツ、壁には岩手県産のアカマツが使用されます。48席の議席と33席の傍聴席を備え、市民に開かれた議場となるそうです。さらに、議長席の後ろには釜石の「鉄のまち」を象徴するスチール製のパネルが設置されるとのこと。地域の特色が随所に取り入れられているのが印象的でした。

6

働きやすい執務室



執務室では、柱と大梁にSRC造を採用することで柱の本数を減らし、広々とした執務空間を実現しています。また、冷暖房は床から吹き出す方式を採用しているため、天井に大きな空調設備を設置する必要がありません。開放感のある空間と働きやすさを両立させるために、構造や設備にもさまざまな工夫が施されていました。

7

開放的なホール



1階の「みんなのホール」は2階まで吹き抜けになっており、とても開放的な空間でした。天井裏にはPCa部材をそのまま活用することで、大きな柱を設けずに広い空間を確保しているそうです。また、天井材が少ないため落下物のリスクも軽減できとのこと。デザインだけでなく、安全性にもつながる構造になっていました。

8

地域とつながる仮囲い



現場の仮囲いには近隣のこども園の園児たちが描いた絵が展示されているほか、ラグビーチーム・釜石シーウェイブスの看板も掲示されていました。また、現場ではこども園の児童を対象に交通安全教室も実施したそうです。工事現場という閉鎖的な印象がありますが、地域との交流を大切にしながら、親しまれる現場づくりに取り組んでいることが伝わってきました。

感想

現場探検を終えて

建築管理グループに所属し、事務や原価を担当している私にとって、今回の建設現場見学は、日々の業務の意義を根本から見つめ直す大変貴重な機会となりました。

普段はパソコンのモニター越しに数字や文字と向き合う時間がほとんどですが、現場へ足を運ぶことで、自分が処理しているデータが建物を造るための実体になっていることを強く実感しました。

特に印象に残っているのは、市産材を使用したぬくもりのあるエントランスホールや、普段は立ち入ることのできない市長室、議会場を間近で拝見できたことです。パソコンの画面上の情報が現実の形となり、地域の未来を支える場所になっていく光景を目の当たりにし、自分もこ

のプロジェクトの一翼を担っているのだという喜びが湧き上がりました。

同時に、現場の圧倒的なスケールと、そこで働く多くの方々の熱気を肌で感じたことで、事務方としての自身の役割の重要性に改めて気づかされました。私たちが日々管理している予算やさまざまな事務手続きは、単なる作業ではなく、この巨大な現場を円滑に進めるための大切な土台となっています。その繋がりを体感できたことで、日々の業務に対する姿勢がより一層引き締まりました。

今後は、画面上の数字を無機質なデータとして扱うのではなく、今回目にした現場のぬくもりや情景を思い浮かべながら業務に向き合いたいと思います。また、建築管理の立場から現



戸田建設株式会社 東北支店 管理部建築管理グループ
小野寺 莉乃さん

場を力強く支えられるよう、より一層の責任感と誇りを持って仕事に取り組んでまいります。最後になりますが、現場探検にご尽力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

黒川消防署新庁舎建設

発注者／黒川地域行政事務組合理事会
理事長 浅野俊彦
設計者／株式会社山下設計 東北支社
施工者／戸田建設株式会社 東北支店

施工場所／宮城県黒川郡大和町吉岡西部
土地区画整理事業内
工期／2024年2月16日～2025年11月28日
工事内容／構造:地上2階RC造
延床面積:3,762.09㎡
建築面積:2,109.19㎡

昭和48年に開庁した旧消防本部・黒川消防署庁舎では、施設の老朽化に加え、地域の目覚ましい発展に伴う消防需要の増大や人員拡充への対応が急務でした。さらに豪雨による浸水や震災の損傷といった課題も重なり、これらを抜本的に解決する新拠点として、本物件は新庁舎基本構想策定業務から6か年の歳月をかけ令和8年4月に供用を開始しました。本施設の計画にあたっては、①安心と信頼性の高い強固な消防庁舎、②住民の生活を守る機動性の高い消防庁舎、③周辺環境に調和



した地域のシンボルとなる消防庁舎、④機能的で永く愛される身近な消防庁舎、の4つを基本方針の骨格に据えています。施工では、徹底した「品質の造り込み」と「安全管理」に注力しました。特に開口部が多い救助擬岩施設やロープ渡過などの訓練施設では、BIMを活用したフロントローディングとデジタルパトロール(3Dモデル上での安全確認)を導入しました。これにより、施工ステップを可視化して訓練器具と躯体鉄筋の干渉を防ぎ、厳格な大会基準が求められる同器

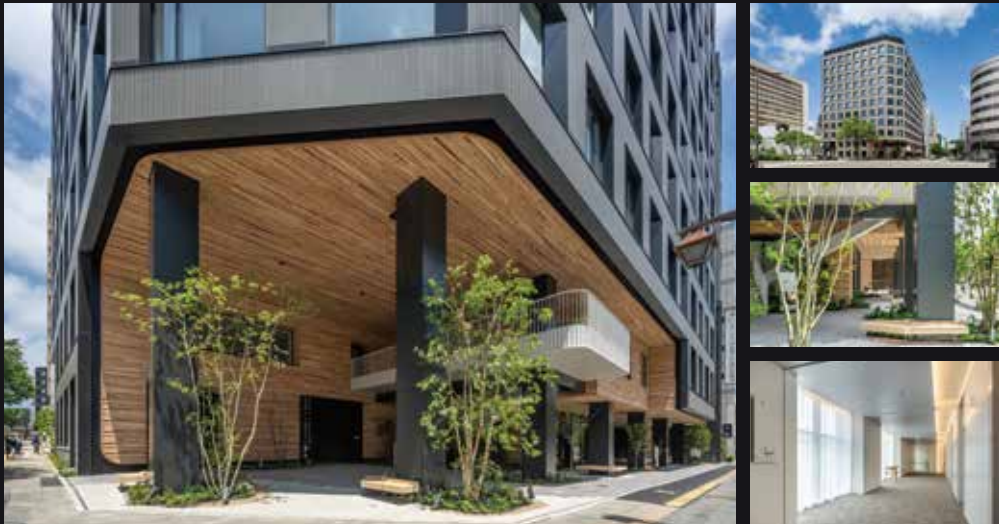
具の設置において、アンカーボルトの高精度な施工を実現しました。また、このモデルを用いて協力会社と綿密に協議を重ね、細部まで品質を突き詰めるとともに、安全対策を徹底したことで、無事故・無災害での竣工を実現しました。確かな技術力と強固な結束力の結晶として、災害に強く安全な消防庁舎を無事にお引き渡しすることができました。本庁舎が地域の安全・安心を守る確固たる要として、末永く皆様に愛されることを祈念しております。

仙台中央三丁目
開発事業新築工事
(NANT仙台南町)

発注者／鹿島建設株式会社 東北支店
設計者／鹿島建設株式会社 東北支店
施工者／鹿島建設株式会社 東北支店

施工場所／宮城県仙台市青葉区中央3丁目4番12号
工期／2023年12月1日～2025年6月16日
建物概要／構造:地上S造11階建、地下1階RC造、
制震構造
敷地面積:1,347.89㎡(407坪)、
延床面積:11,657.13㎡(3,526坪)
建築面積:1,077.84㎡

仙台駅近接の好立地にて利便性・安全性・快適性を兼ね備えた賃貸オフィスビルを鹿島建設が自社開発し、2025年6月に竣工しました。仙台市街地の交差点での工事、かつ2面は隣地に接した工事のため、公衆災害の防止、騒音、振動、粉塵対策を最大限実施するとともに、施工BIMや現場イノベーション技術を活用し、スマートな現場づくりを実現しました。オフィスは基準階約258坪、天井高2.8mの



無柱空間を活かし柔軟なレイアウトが可能で、1フロア最大5分割、小規模区画にも対応。自然光を取り入れた共用部や屋内階段により、開放的で快適な執務環境を実現しています。安全面では制震装置や72時間稼働の非常用発電設備を備え、BCP対策を強化。二段階セキュリティにより利便性と安全性を両立しています。環境面では省エネ設備や資材活用により「CASBEE最高位Sランク」や「ZEB Ready」の

外部認証を取得し、環境へ積極的に配慮したオフィスビルとなっています。主要道路の角地にある公開空地は、壁天井を全面天然木で仕上げ、郷土種を中心とした多様な植栽を配置。高さ約7.5mのピロティが生む大きな開放感とあわせ、通行者に憩いの場を提供しています。ウッドデザイン賞2025優秀賞(林野庁長官賞)受賞。また、仙台市の「せんだい都心再構築プロジェクト」第2号案件です。

東北自動車道
鳴瀬川橋床版取替工事

発注者／東日本高速道路株式会社
設計者／清水・東鉄磐井川橋床版取替工事
特定建設工事共同企業体
施工者／清水・東鉄磐井川橋床版取替工事
特定建設工事共同企業体

施工場所／宮城県大崎市三本木
工期／2023年4月1日～2026年7月13日
工事内容／床版取替工:8,460㎡(317枚)
中分改良工:240m
高力ボルト取替工:73,324本

老朽化が進む高速道路では、橋梁やトンネルなどの大規模なりニューアル工事が全国で実施されています。本工事は東北自動車道の大衡IC～古川IC間に位置する鳴瀬川橋という長大橋の上下線それぞれ約370mの床版取替工事です。取替にあたり、施工期間とスペースに制限がありました。施工は交通渋滞や冬期の関係により、5月から7月までの約2か月半(春施工)と11月から12月ま



での約1か月(秋施工)という制約がありました。東京側は三本木PAが近接しており、本線へ戻る交通流を確保するため、施工スペースに配置できる資機材に制限がありました。このため、期間の短い秋施工にまず東京側の60mを取替し、約5か月後の春施工の東京側の施工スペースを確保、春施工で残りの床版取替を行いました。橋梁の途中まで床版を取り替えるため、約5か月間のため

の接続部も設計、施工を行いました。このような工夫により、施工期間とスペースに制限がある中で、延長の長い取替を無事に完了する事ができました。高速道路が、今後も安全・安心なインフラとして、地域経済や人々の生活を支え続けていくことを期待しております。

LOGI'Q仙台空港
南新築工事

発注者／岩沼開発特定目的会社
設計者／浅井謙建築研究所株式会社
施工者／前田建設工業株式会社 東北支店

施工場所／宮城県岩沼市空港南2丁目2-1、2-3、2-6、2-7
工期／2024年5月1日～2025年8月29日
建物概要／構造規模:構造RCS造
(柱部分RC造、梁部分、最上階S造)
直接基礎(地盤改良)地上4階
延床面積:建築面積(建築の場合)
延床面積:44,852.97㎡
建築面積:12,112.51㎡

本計画は、仙台空港南側の臨空工業団地に位置し、震災復興により整備された広域道路網と高速道路への優れたアクセスを背景に、南東北の物流拠点として極めて高い立地優位性を有する施設です。仙台東部道路や国道4号線への接続性にも優れ、広域物流を支える基盤として機能します。三方接道の敷地条件を活かし、1階両面・2階片面バースを配置することで最大6テナント対応を可能とし、車両交錯のない効率的な動線を実現しています。外観



は環境配慮と空港に隣接する空につながるイメージを、白を基調に緑や青をアクセントカラーとしてデザインとし、内装はインダストリアルな表現としています。また、太陽光発電や非常用発電設備の導入によりBCP対策CASBEEランクAを取得した環境配慮にも対応した施設となっており、今後の物流需要の拡大にも柔軟に対応可能な施設であり、持続的な運用と更なる価値向上が期待されます。

施工においては、鉄筋工事では基礎地中梁、柱、スラブ、壁の全部位を工場でユニット化し、現場へ搬入・取付を実施、柱型枠ではシステム型枠の採用、鉄骨工事では製作工場を3社に分ける等の取組で、工期を厳守しました。発注者との事前協議では、3Dモックアップを作成し、意匠、設備機器、サインの配置や安全性について、VRによる仮想空間を使用して共通認識の形成を図りました。

七日町第8ブロック南地区 暮らし・にぎわい再生事業 施設新築工事

発注者／株式会社山形銀行
設計者／基本設計：RIA・本間設計共同企業体
実施設計・監理：本間設計・RIA共同企業体
施工者／大林組・千歳建設・山形建設・
渋谷建設・市村工務店共同企業体

施工場所／山形県山形市七日町三丁目610番1、610番4
工期／2024年2月～2026年2月
建物概要／本館棟：S造7F,PH付、駐車場棟：S造4F,PH付
延床面積：14,707.89㎡、建築面積：3,365.48㎡

山形銀行の本店建て替えプロジェクトです。敷地は山形のシンボルである文翔館(旧県庁)を正面に望む目抜き通りに面した中心市街地の象徴となる交差点に位置します。地域経済を支えてきた山形銀行が本店の建て替えを契機に、県民市民の新たな「にぎわいの場」をつくり、山形銀行と地域の格を高めることに挑戦しました。

建築のコンセプトは「にぎわいを纏う」です。1階と2階には市民に開放された「にぎわ



い広場」「多目的ホール」「シェアスペース」を配置し、7階建ての銀行本店がにぎわいを身に纏う様子をそのままカタチに表現しました。

山形らしいサステナブル建築へも挑戦し、既存地下躯体の残置利用を始め、ダブルスキンや井水による融雪システムなど、最先端の省CO₂技術を導入しています。ダブルスキンインナーの外装や広場・ホール等の内装には、総量約36㎡の県産・市産木材を積極的に使用しています。

革新的施工へ挑戦を続けました。BIMを活用したコンクリート量の管理、AI・MR(複合現実技術)による現場の照合を行いました。発注者・設計者との意識の共有を大切に、外装のダブルスキン、ECPのデザイン貼り、内装の木材ルーバーや最上川をモチーフとした広場の床タイル割は実大モックアップの作成と合わせ、デジタルモックアップも積極的に作成しました。

SMC遠野サプライヤーパーク 建設計画

発注者／SMC株式会社
設計者／大成建設株式会社一級建築士事務所
山田憲明構造設計事務所
(共用棟屋根架構設計)
施工者／大成建設株式会社

施工場所／岩手県遠野市上郷町板沢4地割内ほか
工期／2023年7月1日～2025年8月31日
建物概要／構造：S造、一部W造/地上3階、塔屋1階
延床面積：79,250.90㎡
建築面積：44,539.65㎡

発注者であるSMC株式会社様は、主力製品である空気圧制御機器において世界トップシェアを誇る、自動制御機器の総合メーカーです。グローバル企業として、あらゆる産業の自動化・省力化を支える製品を世界中へ提供しています。今回新築したSMC遠野サプライヤーパークは、岩手県遠野市の豊かな自然環境の中に建設された、日本初の環境共生型生産拠点となる「サプライヤーパーク」です。

従来の分散型サプライヤー配置ではなく、複数のサプライヤーが一つの建物内で共に成長



する、新しい生産拠点として計画されました。一つ屋根の下にサプライヤーを集めることで、協業による一貫生産体制、高品質化や短納期化による部品供給の強靱化が図られ、災害時におけるより強固なBCP体制を実現しました。

当施設は、生産拠点の工場棟、食堂や宿泊施設を完備している共用棟のほか、付属棟としてリサイクル棟、危険物置場、ユーティリティ棟、守衛棟が配置されています。

共用棟には、遠野の山並みに呼応する流線形の屋根を採用し、遠野産アカマツを活用し

たダブルアーチ構造によって、自然とテクノロジーの共生を表現しています。さらに、アトリウムや食堂、会議室、宿泊施設を配置し、企業間や地域との交流を促進しています。

工場棟には、各生産区画を上下に結び垂直搬送機と、中間階に水平自動搬送を行うAGV設備を設けることで、高効率な生産環境を実現しました。

竣工以後、日本初の環境共生型「サプライヤーパーク」という新たなビジネスモデルに興味を持った企業が国内外から見学に訪れるなど、世界から注目される施設となっています。

日建連表彰2025(第6回土木賞)



女川原子力発電所 防潮堤かさ上げ工事



- 所在地／宮城県牡鹿郡女川町～石巻市
- 施設管理者／東北電力株式会社
- 設計者／東北電力株式会社 鹿島建設株式会社
- 施工者／鹿島建設株式会社
- 関係者／株式会社加賀 株式会社北興建設
ケミカルグラウト株式会社 株式会社セイア
丸磯建設株式会社 大阪砕石エンジニアリング株式会社
大興物産株式会社 株式会社地震工学研究所
基礎地盤コンサルタンツ株式会社
リテックエンジニアリング株式会社
- 着工日／2013年5月20日
- 竣工日／2024年3月29日

〔受賞理由〕

女川原子力発電所は、東日本大震災の震源地に最も近接した原子力発電所であり、高さ13.0mの津波に見舞われたが、建設当初から敷地高さを高くするなどの安全対策を実施していたため、深刻な被害を受けることなく無事に冷温停止を実現した。一方、震災後の原子炉の再稼働にあたっては、より過酷な条件でも安全性が確保できることが求められた。

このため、東日本大震災の最新知見をもとに岩盤の断層面での挙動や大規模すべりの発生場所を考慮し、震災時の津波高さ13.0mを大幅に上回る津波高さ23.1mを設定して原子炉の安全対策を10余年かけて徹底追求した。

津波に対してさらなる安全性を確保するため、海拔17mの施工済み防潮堤を海拔29mにかさ上げした。同時に、防潮堤の設計信頼性を向上させるため、防潮堤を構成する岩ずり盛土に岩盤相当の支持特性と滑動抵抗性をもたせることを目的に、既設改良地盤直下の地盤の沈下対策や防潮堤海側の地震時滑動対策を追加補強対策として計画した。

防潮堤のうち、鋼管鉛直壁は改良地盤に下杭鋼管(φ2.5m)を4m間隔で設置し、鋼製遮水壁を一体化させた上杭鋼管(φ2.2m)を3.5mの結合長さでソケット結合する構造となっている。追加補強対策として施工する地盤改良は、既設の地盤改良と鋼管鉛直壁が施工された状態でその直下を施工するもので、施工機械の配置などから改良径5.5mの大口径高圧噴射攪拌工法を沈下対策として適用した。

また、防潮堤海側の滑動対策として30N/mm²の置換コンクリートを施工した。施工にあたっては、締固めが不要でひび割れ対策も可能な低発熱高流動コンクリートを採用するとともに、複枠にラス網と鉄筋を使用することで、1日1,150m³の打設を可能にして工期も短縮させた。

本工事は、狭隘な現場条件にもかかわらず原子力発電所再稼働に向けてさらなる強固な安全対策工事の施工と品質確保を達成したことが評価され、日建連表彰土木賞に値するものと認められた。

